

正しく選んで正しく履こう

倉吉幼稚園で卒園児足型測定会



小学生になった卒園児の足の形をカメラに収める吉村さん

総合研究センターの招聘^{しょうびん}研究員、吉村真由美さんが保護者向けに、成長期の足を守る靴行動について講演した。

コマーシャルに影響されたり、儉約して大きいサイズの靴を選んだり、手を使わない雑な履き方になる、など小学生の靴行動について指摘。「かかと周りがしっかりして、つま先から3分の1の部分^{ぶぶん}が曲がる靴を選んでほしい」とアドバイスし、「靴はつま先ではなく、靴のかかとの方を『トントン』とさせて履いてほしい」と正しい履き方を強調していた。

西田園長は「1年に1度は靴の履き方が正しいか確認する機会を設け、親子で正しい知

初めて開発された上履きを年長組の37人にプレゼント。この日は市内の小学校に通う25人と保護者ら計72人が参加した。

まず全員の足型を測定。土踏まずができているかどうか、足長や足幅、外反母趾^{はらひ}になっていないかなどを確認。その後、早稲田大^{はやあざの}人間科学学術院人間

子どもたちの足を健康に育てる取り組みを実践している倉吉市仲ノ町の倉吉幼稚園（西田直美園長）で8日、ことし3月に卒園した園児を招いて足型測定会と保護者らの同窓会が開かれた。小学生になった児童の足の様子を確認し、小学校で履き方、選び方を再度確認した。

同園は3月、足の健康を守るために日本

識を持ってもらいたい」と話していた。

（石原美樹）